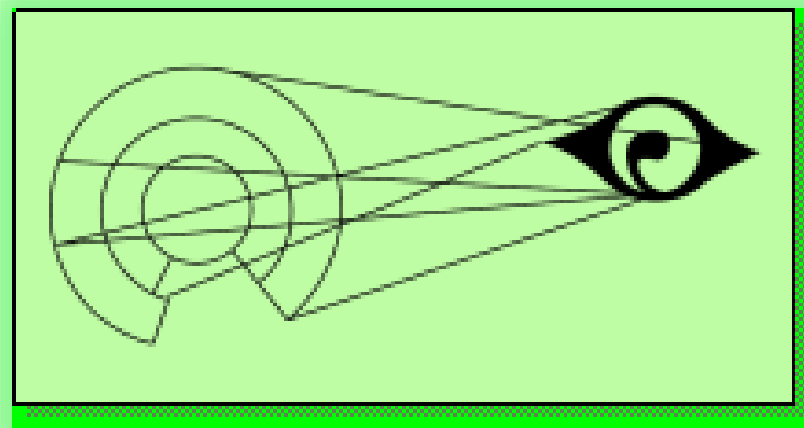


令和6年度（2024年度） 第1回共同研究推進委員会



期日 令和6年5月17日(金) 13:00～16:30

北海道教育研究所連盟
共同研究推進委員会

【開会】

事務局次長挨拶



第18次共同研究推進委員 自己紹介

- 石狩教育研修センター
- 上川教育研修センター
- 渡島教育研究所
- 網走地方教育研修センター
- 札幌市教育センター
- 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
- 空知教育センター
- 宗谷教育研修センター
- 胆振教育研究所
- 根室教育研究所

各機関から1名

●北海道立教育研究所から2名

自己紹介

- ・お名前
- ・所属と学校名
- ・担当学年や教科
- ・研究所、センターでの業務内容 等

共同研究推進委員会役員選出

- 石狩教育研修センター
- 上川教育研修センター
- 渡島教育研究所
- 網走地方教育研修センター
- 札幌市教育センター
- 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
- 空知教育センター
- 宗谷教育研修センター
- 胆振教育研究所
- 根室教育研究所

○の機関から１名

●北海道立教育研究所から１名

本日の内容

【説明・協議１】

- 第１８次共同研究の概要について
- １年次の成果と課題について

【説明・協議２】

- 第１８次共同研究２年次に係る業務推進について
- 年間スケジュールについて
- 第１８次共同研究の今後の方向性について

【連絡・閉会】

- 第２回共同研究推進委員会について

本日の内容

【説明・協議１】

- 第１８次共同研究の概要について
- １年次の成果と課題について

【説明・協議２】

- 第１８次共同研究２年次に係る業務推進について
- 年間スケジュールについて
- 第１８次共同研究の今後の方向性について

【連絡・閉会】

- 第２回共同研究推進委員会について

【説明・協議Ⅰ】第18次共同研究の概要について

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

【ポイント】

- ✓ これらの資質・能力を育むためには、**新学習指導要領の着実な実施**が重要
- ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用**が必要不可欠

全ての子どもたちの可能性を引き出す
個別最適な学びと、協働的な学び

【説明・協議Ⅰ】第18次共同研究の概要について

2020年代を通じて実現を目指す学校教育 「令和の日本型学校教育」の姿

＼全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現／



子供の学び

- ✓「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
- ✓各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている

#個別最適な学び #協働的な学び
#主体的・対話的で深い学び #ICTの活用



教職員の姿

- ✓環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
- ✓子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
- ✓子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている

#教師の資質・能力の向上 #多様な人材の確保 #家庭や地域社会との連携
#学校における働き方改革 #教職の魅力発信 #教職志望者の増加



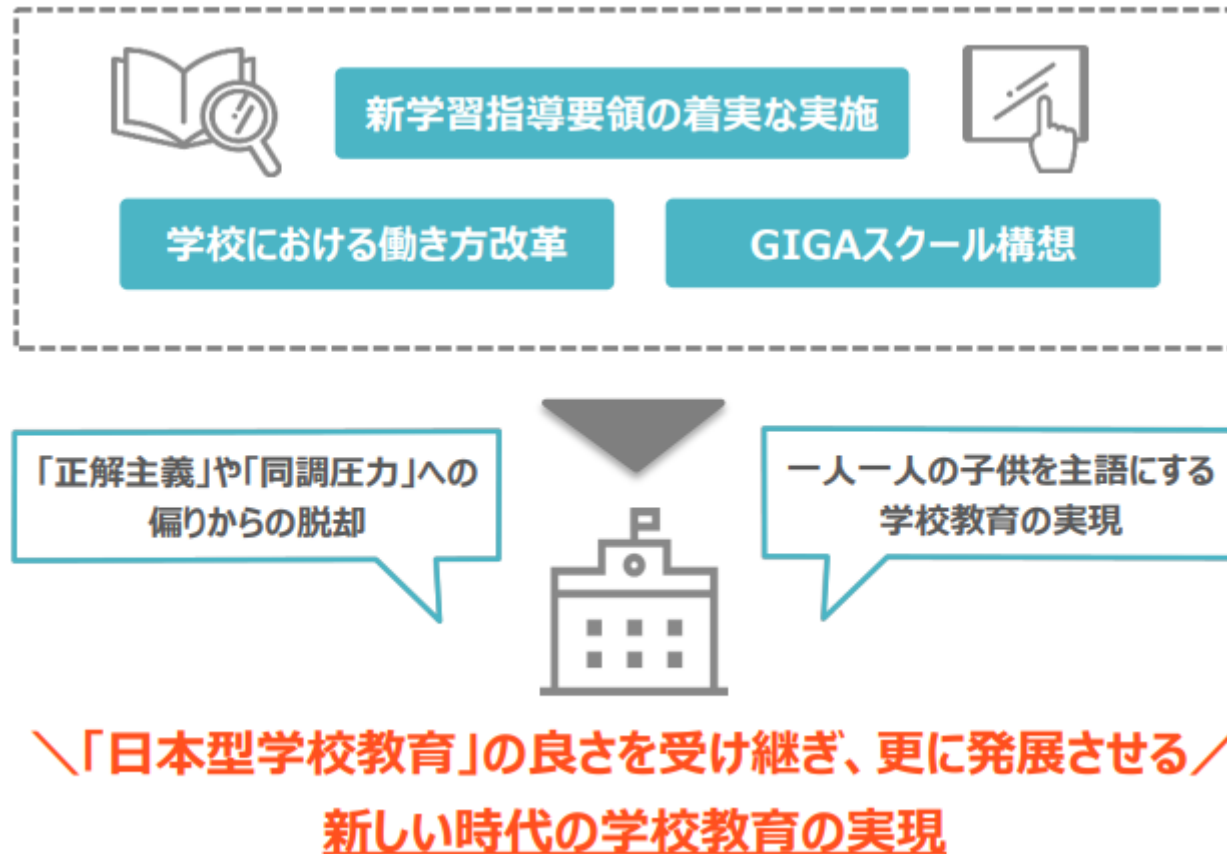
子供の学びや 教職員を支える環境

- ✓ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている
- ✓新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている
- ✓人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている

#ICT環境の整備 #学校施設の整備
#少人数によるきめ細かな指導体制

【説明・協議Ⅰ】第18次共同研究の概要について

第18次共同研究テーマ



一人一人の子どもを主語にする
学校教育の実現に向けて

一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて

【ねらい】

各教育研究所・研修センターがより連携・協働できる体制を整備し、学校支援のために活用する、個別最適な学びと協働的な学びの実践事例の収集・提供をすることにより、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての教職員の能力の向上に資する。

【研究内容Ⅰ】

全ての子どもたちの可能性を引き出す

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

【研究内容2】

子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

道研連加盟機関である各教育研究所・研修センターの

一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

子どもの主体的な学びを
支援する伴走者として

- 研究内容 1 全ての子どもたちの可能性を引き出す
「個別最適な学び」と「協働的な学び」
- 研究内容 2 子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

R5

【1年次のゴール】

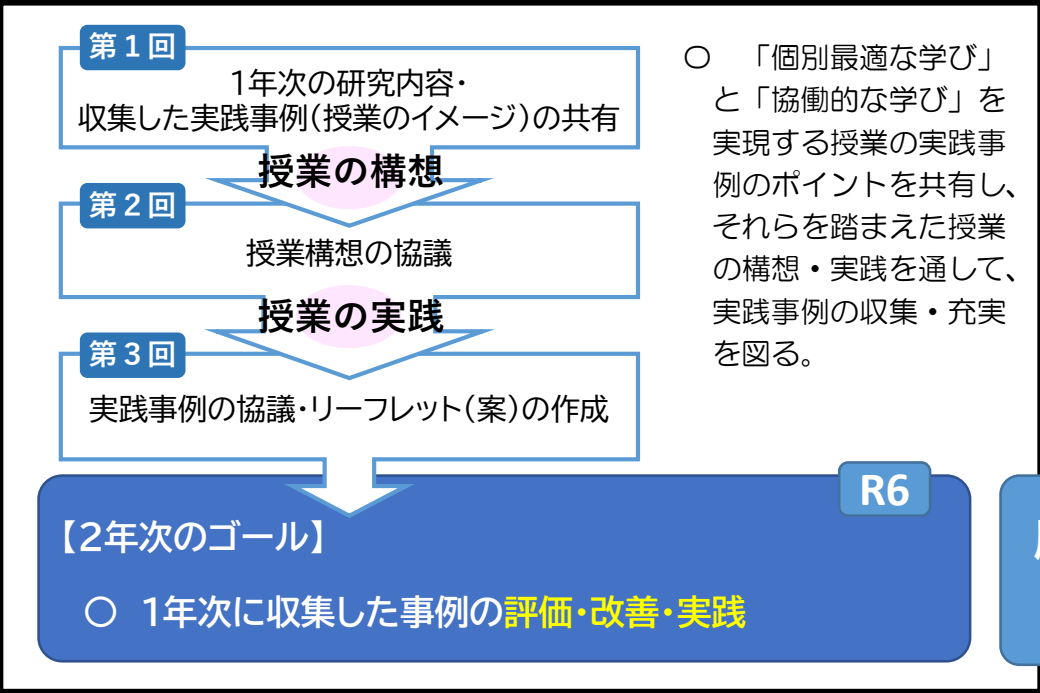
○ 収集した実践事例(授業のイメージ)の共有

集める

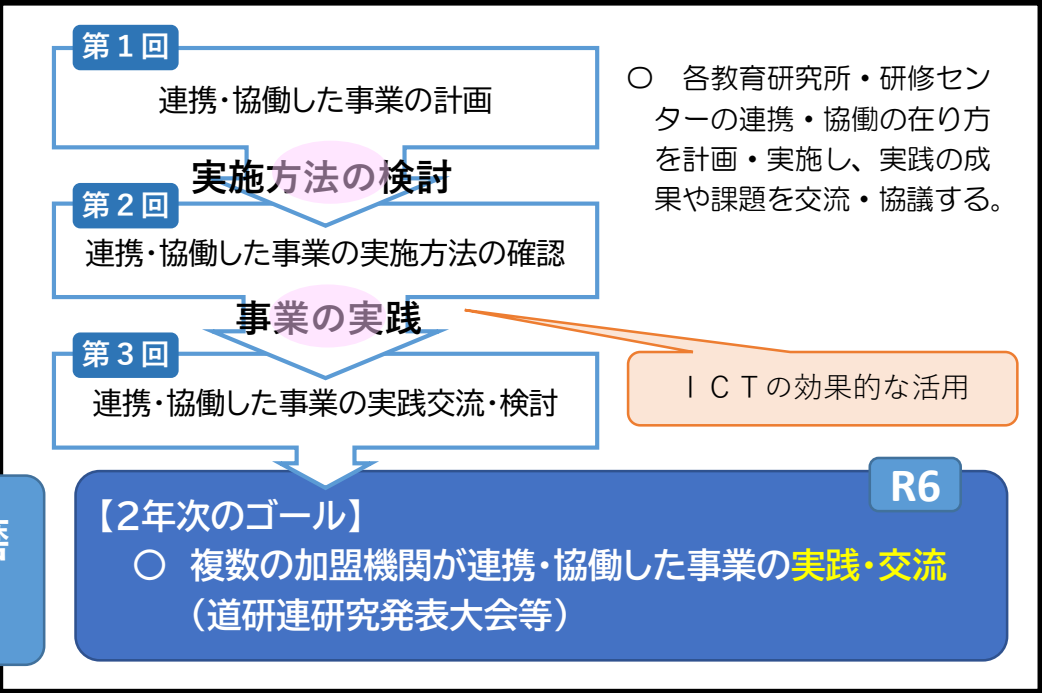
R5

【1年次のゴール】

○ 連携・協働の在り方について共有



磨く



R7

【3年次のゴール】

○ 実践事例の普及・還元
(道研連Webページの掲載・リーフレット等配付)

広める

R7

【3年次のゴール】

○ 持続可能な連携・協働体制の構築に向けた改善・普及

全ての子どもたちの可能性を引き出す

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

(1) 「個別最適な学び」に関する授業実践例

ア 指導の個別化

子ども一人一人の特性・学習進度・学習到達度に応じた指導方法・教材等の工夫

イ 学習の個性化

子ども一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性に応じた学習活動や課題に取り組む機会の設定

(2) 「協働的な学び」に関する授業実践例

多様な他者と協働し、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す学習活動や場面の設定

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実に向けて

○ 授業において大事にしたいこと

A 子どもが「自分（たち）で学び取る」授業

→ 目的に合わせた端末の使い方や学習スタイルの選択等、
学び方を学べる工夫

B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

→ 必要感のある課題設定や単元（題材）計画、教師の発問や
声かけの工夫

C 子どもが安心して、進んで取り組める授業

→ 学習の土台づくり（望ましい人間関係の構築、学習ルール
や基本的・基礎的な知識及び技能、ICTのスキル等）

全ての子どもたちの可能性を引き出す

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

動画視聴「子どもの主体的な学びを実現する

中学校でのクラウド活用」

<動画視聴の視点> 「授業において大事にしたいこと」

A 子どもが「自分（たち）で学び取る」授業

→ 目的に合わせた端末の使い方や学習スタイルの選択等、
学び方を学べる工夫

B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

→ 必要感のある課題設定や単元（題材）計画、教師の発問や声
かけの工夫

C 子どもが安心して、進んで取り組める授業

→ 学習の土台づくり（望ましい人間関係の構築、学習ルールや
基本的・基礎的な知識及び技能、ICTのスキル等）

<協議の視点>

- 動画を視聴して感じた
 - ・ 上手くいっている原因、そうならない原因
 - ・ 自己や周囲の実践との違い
- ※Ⅰ年次に収集した実践事例も参考にしてください。
- ※進行役は各グループで決めてください。

本日の内容

【説明・協議1】

- 第18次共同研究の概要について
- 1年次の成果と課題について

【説明・協議2】

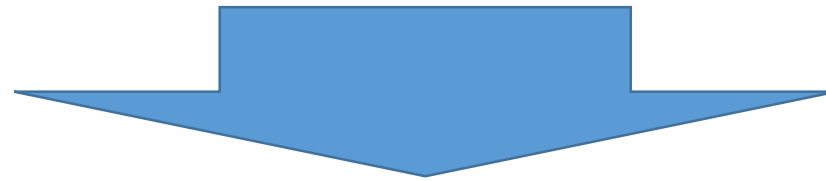
- 第18次共同研究2年次に係る業務推進について
- 年間スケジュールについて
- 第18次共同研究の今後の方向性について

【連絡・閉会】

- 第2回共同研究推進委員会について

<協議の視点>

- 動画を視聴して感じた
 - ・ 上手くいっている原因、そうならない原因
 - ・ 自己や周囲の実践との違い
- ※ 1年次に収集した実践事例も参考にしてください。
- ※ 進行役は各グループで決めてください。



授業構想の作成

一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

子どもの主体的な学びを
支援する伴走者として

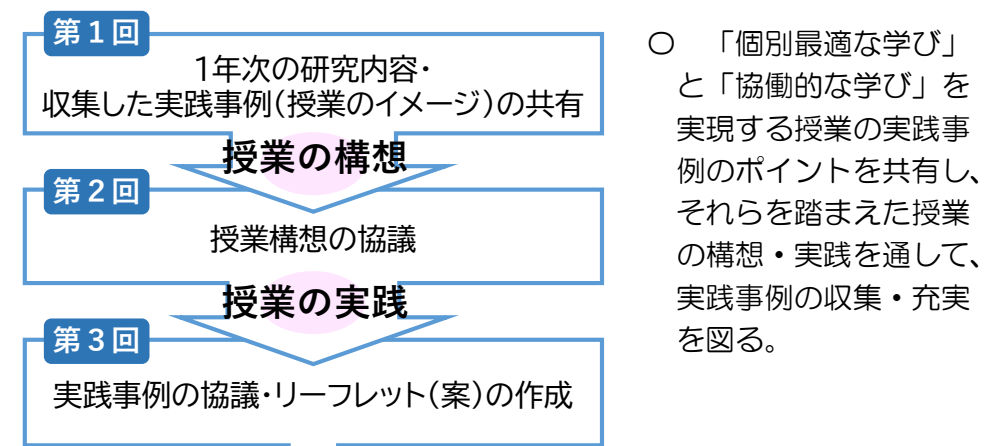
研究内容 1 全ての子どもたちの可能性を引き出す
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

研究内容 2 子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

R5

【1年次のゴール】

○ 収集した実践事例(授業のイメージ)の共有



R6

【2年次のゴール】

○ 1年次に収集した事例の評価・改善・実践

R7

【3年次のゴール】

○ 実践事例の普及・還元
(道研連Webページの掲載・リーフレット等配付)

集める

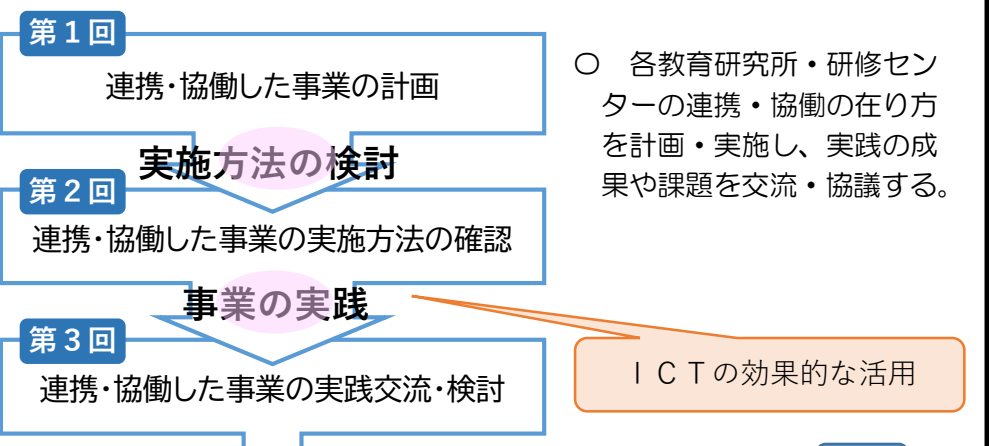
磨く

広める

R5

【1年次のゴール】

○ 連携・協働の在り方について共有



R6

【2年次のゴール】

○ 複数の加盟機関が連携・協働した事業の実践・交流
(道研連研究発表大会等)

R7

【3年次のゴール】

○ 持続可能な連携・協働体制の構築に向けた改善・普及

【説明・協議2】第18次共同研究2年次に係る業務推進について

○学校○○科 ○○市教育研究所 キーワード (例)「学習の個性化」を目指した○○○の工夫	
単元名 ○○○○ 「(教材名)○○」 第○学年	内容のまとめ

1 単元の目標 (1) ○○○○～

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①○○○○○○	①○○○○○○	①○○○○○○
	②○○○○○○	②○○○○○○

3 指導と評価の計画 (全○時間)

時間	学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1		・(例) ① (観察・ノート)		
2				
3				
4 本 時				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

4 本時案 (○/10)

(1) 本時の目標

(2) 本時の展開

時	○学習活動 ・児童の反応	◇留意点 ☆評価
導 入	○ ※本時の課題 ○	◇
展 開	○ ・ ・ ・	◇ ☆
終 末	○	◇ ☆

5 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に係る授業改善のポイント

○ (例)「学習の個性化」を目指した○○○の工夫

・学習活動の複線化

・単元計画の工夫

参考文献

【説明・協議2】年間スケジュールについて

年間スケジュール

5月17日(金)	【第1回 共同研究推進委員会】※集合開催
6～10月	・授業の構想 ・各教育研究所・研修センターに蓄積された実践等の実態の把握
7月30日(火)	夏季所員学習会
8月29日(木) 8月30日(金)	【第79回北海道教育研究所連盟研究発表大会(網走大会)】 ・研究発表
10月9日(水)	【第2回 共同研究推進委員会】※オンライン ・授業構想の検討 ・複数の研究所・センターが連携した取組に係る協議
11月26日(火)	冬季所員学習会
11月～12月	・授業の実践
1月10日(金)	【第3回 共同研究推進委員会】※オンライン ・収集した実践事例を道研連加盟機関に共有 ・連携・協働体制や連携した実践内容の方向性の確認 ・第18次共同研究3年次に向けて
2月5日(水)	【連盟委員会】R6事業報告 R7事業計画提案

一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

子どもの主体的な学びを
支援する伴走者として

研究内容 1 全ての子どもたちの可能性を引き出す
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

研究内容 2 子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

R5

【1年次のゴール】

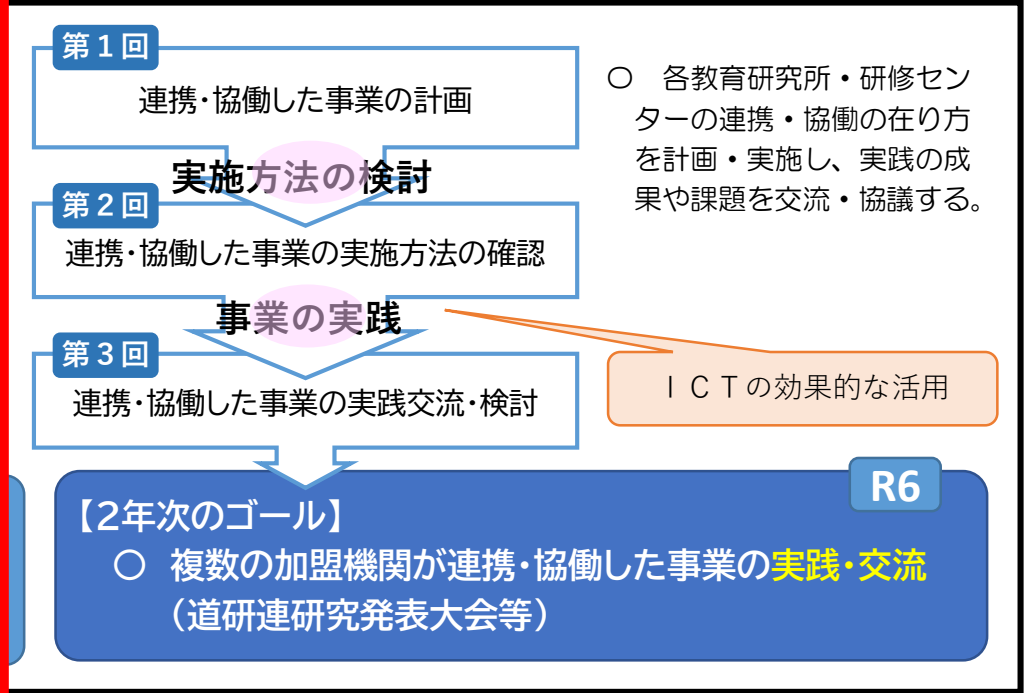
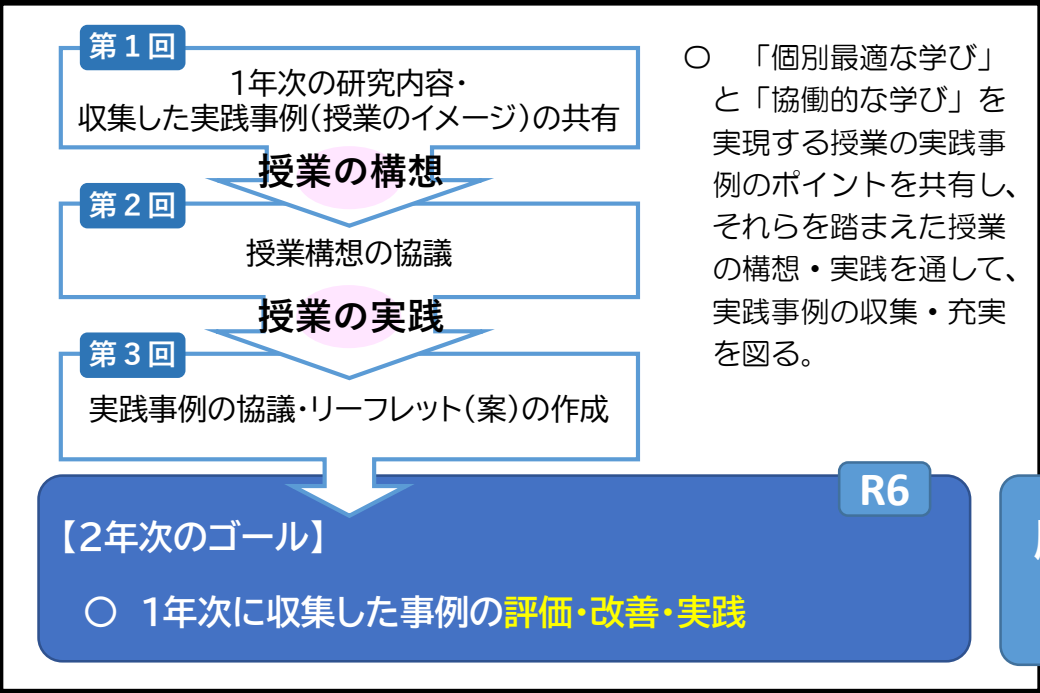
○ 収集した実践事例(授業のイメージ)の共有

集める

R5

【1年次のゴール】

○ 連携・協働の在り方について共有



磨く

R7

【3年次のゴール】

○ 実践事例の普及・還元
(道研連Webページの掲載・リーフレット等配付)

広める

R7

【3年次のゴール】

○ 持続可能な連携・協働体制の構築に向けた改善・普及

【説明・協議2】 第18次共同研究の今後の方向性について

<協議の視点>

- 教育研究所・センターの連携・共同体制の在り方について
 - ・すでに、他の教育研究所や研修センターと連携した事業に取り組まれているところは、現在の状況について
 - ・これから具体的な取組を進めていくところは、現在の状況や、これならできそうという取組について
(①共同研究推進委員 ②教育研究所・センター)

グループ協議 20分間

本日の内容

【説明・協議1】

- 第18次共同研究の概要について
- 1年次の成果と課題について

【説明・協議2】

- 第18次共同研究2年次に係る業務推進について
- 年間スケジュールについて
- 第18次共同研究の今後の方向性について

【連絡・閉会】

- 第2回共同研究推進委員会について

連絡

○ 第2回共同研究推進委員会について

日時：10月9日（水）15:00～16:30

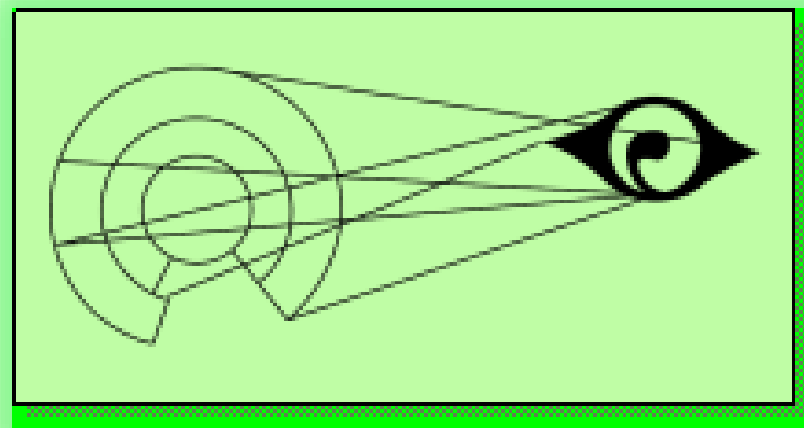
- ・ 授業構想の検討
- ・ 複数の研究所・センターが連携した取組に係る協議

【連絡・閉会】

事務局次長挨拶



令和6年度（2024年度） 第1回共同研究推進委員会



期日 令和6年5月17日(金) 13:00～16:30

北海道教育研究所連盟
共同研究推進委員会